校 長 室 だ よ り（No.8）

令和４年６月13日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

引渡し訓練

安全で安心して学校生活を送れるようにすることは、子どもたちはもちろん、保護者、教職員、地域の方々の願いです。しかし、私たちのまわりには、数々の危機・危険が存在しています。子どもたちが被害者となる痛ましい事件・事故が繰り返し発生しています。犯罪、交通事故、スポーツ事故、自然災害等からアレルギー疾患などの健康問題まで、子どもたちを取り巻く環境は多岐にわたっています。

平成21年４月に施行された学校保健安全法によって学校安全計画や危険等危機管理マニュアルを策定するなど学校安全の取組を推進してきました。

昨年度は実施できず、オンラインでその方法を確認いただいた「引渡し訓練」ですが、今年は、実施することができました。

引渡し訓練は、子どもたちが学校にいるときに、想定される危険等に応じて訓練を行いますが、学校だけで実施するのではなく、各地域の警察署・各地域の消防署等と連携し、訓練の充実を図ったり、専門家の評価により、訓練の検証、危機管理マニュアルの点検、改善につなげたりすることも必要になってきます。

また、大規模な自然災害等の場合には、近隣の学校や施設等と協力することが必要になることも想定し、連携した訓練を実施することも考えられます。黒井小学校では、県立氷上高等学校や県立氷上特別支援学校、春日中学校、認定こども園かすが花の子園などが考えられます。さらに、近隣の方にも訓練に参加する機会を設けることは、学校が避難所となった場合の学校の体制が理解され、いざというときの混乱を最小限にする上で有効だと思います。事故等発生時等に子どもたちだけで登下校が難しい場合には、登下校の安全確保を図るため、保護者の引率による登下校や今回のような保護者への「引渡し」を行うことが考えられます。事前に、学校における登下校の安全確保策や保護者への引渡しについても、引渡し方法、引渡し場所などを保護者や地域の安全ボランティア団体等に周知し、緊急連絡体制を確立するなどして訓練を行うことも子どもたちの安全確保には有効だと思います。

今回の想定は、「豪雨により、道路が一部冠水し、児童だけでの下校は非常に危険な状況である。体育館の移動通路も冠水しているため、引き渡し場所として使用できない。」としました。自動車での迎えも無理な方もあったり、学校まで迎えに来ることが簡単にできない状況の方もあったりすると考えます。187名をどうやったら無事に保護者に引き渡せるか、我が子をどうやって迎えに行くのがベストなのかについて今後の課題も見えたと思います。「子どもたちの安全を最優先」に、学校教職員のみならず子どもたち自身、保護者も含めた全員の危機意識が大変重要であると感じた訓練でした。